

# 平成30年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

平成 30 年度の主な事業報告

社会福祉法人恵徳会

社会福祉事業

【社会福祉法人 恵徳会】

平成 30 年度、社会福祉法人恵徳会は、①収入増に向けての検討、②内部体制の見直し、③研修の充実、④地域貢献の 4 点を重点目標として取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

① 収入増に向けての検討

・平成 30 年度は、収入増に向けた体制作りを重点的に行い、実際に活動を行うことはなかった。次年度は、各拠点に担当者を配置し、近隣事業所や地域へ PR 活動を行う予定。

② 内部体制の見直し

・法人事務局の機能の充実、強化のため、人事異動を行った。  
・これまでの法人委員会の見直しを図り、新たに「企画運営推進委員会」、「広報・地域サービス推進委員会」、「防災・防犯対策委員会」を創設、職員間での情報収集や新たな取り組みについて検討を行った。

③ 研修の充実

・法人研修員会を中心とし、新人職員研修や、入職後 3 年以上の全ての職員を対象とした中堅職員研修の充実を図った。  
・外部講師によるコンプライアンス、メンタルヘルスの研修を実施した。

④ 地域貢献

・須恵地区と福岡市地区はライフレスキュー事業に参加し、会議や実際の支援業務に携わった。  
・各施設のある地域の諸行事に法人職員も参加した。

【諸 会 議】

(1) 理事会

・第 1 回 平成 30 年 6 月 11 日 (月)

議案 平成 30 年度 予算超過、事業報告、決算状況、社会福祉充実残額の算定結果、評議員会開催日時・提案議題について、運営規定の一部改正

・第 2 回 平成 30 年 9 月 26 日 (水)

議案 平成 30 年第 1 次補正予算(案)、欠員に伴う評議員候補者推薦、業務執行理事の選任、苦情解決報告第三者の選任、定款細則一部改正、諸規定の制定及び一部改正

・第 3 回 平成 30 年 12 月 13 日 (木)

議案 平成 30 年度第 2 次補正予算(案)、諸規定の一部改正

・第 4 回 平成 31 年 3 月 26 日 (火)

議案 平成30年度第3次補正予算(案)、施設長選任、運営費借入及び繰り上げ返済、平成31年度事業計画(案)・平成30年度予算(案)、平成31年度収支予算(案)、諸規程一部改正、指導監査結果及び改善

(2) 評議員会

・第1回 平成30年6月25日(月)

議案 平成30年度 予算超過、決算状況、社会福祉充実残額の算定結果

(3) 監事監査 平成30年6月1日

(4) 運営会議 毎月1～2回実施

(5) 幹部職員会議 毎月1回実施

(6) 各種委員会 企画推進会議(毎月1回開催)

広報委員会(随時開催)

研修委員会(随時開催)

防災・防犯委員会(随時開催)

(7) 公認会計士による外部監査 平成30年5月21日～23日

平成30年11月19日～21日

平成31年2月18日～19日

### 【特別養護老人ホーム恵昭園】

平成 30 年度、特別養護老人ホーム恵昭園では、①安定した利用実績を維持する、②サービスの充実、③地域貢献、④専門的知識・技術の向上の 4 点を目標とし取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

#### ① 安定した利用実績を維持する

- ・医療機関等から入所に関する問い合わせがあった際にパンフレットを送付、入所申し込みに関がったケースもあった。
- ・在宅部署からの入所調整は随時行えたが、医療機関からの入所に関しては、対象者の医療ニーズと施設の受け入れ態勢が合致せず、入所を断らなければならないケースもあったが、併設の施設を紹介する等、出来る範囲での支援を行った。

#### ② サービスの充実

- ・入所予定者の事前面接を行い、確実な情報収集を実施した。
- ・ご利用者やご家族へサービス評価のアンケートを行い、結果についてはサービス検討委員会にて周知した。
- ・リスク面に関しては、事故発生件数は前年度に比べ半数ほどに減ったが、再発事故や転倒、皮膚トラブル等が多く、その中には職員のミスによるものも見受けられた。また、防災・防犯の観点から、火災だけでなく地震や土砂災害を想定した避難訓練や防犯等の研修を実施した。
- ・嘱託医と定期薬の見直しを行った。
- ・ケアプラン項目の実施有無を毎日確認し、月毎の目標に沿った評価を実施、新しい計画策定へと活用した。
- ・介護現場の中で、実践に基づいた個別指導や指導後の確認、評価を行い、フィードバックを実施した。
- ・行事食後にアンケート調査を行い、利用者の食べたいメニューを次の行事や普段の献立に取り入れた。

#### ③ 地域貢献

- ・地域の総会や回覧板から地域行事や地域活動を把握し、実際に職員が参加することで地域住民との交流機会をもった。
- ・毎月実施される、ふくおかライフレスキュー連絡会に参加し、地域課題の把握を行ったほか、サポーターとして地域に出向き支援を行った(3件)。

#### ④ 専門的知識・技術の向上

- ・地区の相談員会議に出席し、他施設の相談員と交流することで、相談員としての資質や役割を振り返り、自己研鑽に努めたほか、新しい介護福祉情報を取り入れ、他職種への伝達を行った。ただし、施設外研修には参加することが出来なかった。

### 【恵昭園短期入所生活介護】

平成 30 年度、恵昭園短期入所生活介護事業では、①安定した利用実績の確保、②安心と信頼を得るサービスの提供、③職員資質の向上、④環境整備の 4 点を目標とし取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

① 安定した利用実績の確保

- ・ ほぼ毎月新規の方の契約を行ったが、実際の利用には至らないケースも多々あった。常に稼働率を意識するよう職員へ伝達したが、年間の平均利用者数は目標値に届かなかった。
- ・ ご家族へ利用中の状況を詳細に説明することで、定期的な利用につながったほか、延長利用等の希望があった際は、柔軟な対応に努めた。また、送迎等でご家族と関わった際に、介護負担が見受けられた場合は、自宅での介護状況を確認したうえで担当ケアマネへ報告し必要時はサービスの追加を打診したことで、利用日数が増えたケースもあった。
- ・ 緊急の受け入れ依頼については、数週間といった長期の利用依頼が多く、居室調整が困難で受け入れることが出来なかった。
- ・ 自立度の高い方は、物足りなさを感じられる方もおられたため、要望を伺い新しい活動を取り入れることに努めた。

② 介護サービスの充実

- ・ 職員間で連携し、情報共有に努めたほか、同法人内の通所事業所を併用されている方については、事業所間で随時情報の共有を図った。

③ 職員資質の向上

- ・ 職員研修への参加はできたが、事例発表等の機会はなく、また他施設職員との交流は相談員のみで介護職員の交流はできなかった。

④ 環境整備

- ・ 在宅に近い環境を提供するため、家具の購入や模様替えを行った。
- ・ 感染症発症者の受け入れを打診されることもあったが、感染防止の旨をお伝えしお断りさせて頂いた。

**【アネックス恵昭園】**

平成 30 年度、アネックス恵昭園では、①安定した利用実績の維持、②サービスの充実、③環境整備、④知識・技術の向上、⑤地域福祉への貢献の 5 点を目標とし取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

① 安定した利用実績の維持

- ・ 目標とする入居人数は確保することができたが、満床となった日数は少なく空床が発生していた。また、入居者が入院された際は、病院の関係部署と密に連絡を取り合い、入院の長期化を防ぐように努めた。
- ・ 新入居については、申込者が少ないことや、医療的な課題から入居に繋がらないケースもあったが、場合によっては併設の施設を紹介し、実際に入所されたケースもあった。

② サービスの充実

- ・ ユニット内での調理はほとんど出来なかったが、管理栄養士協力のもと、おやつ作りを実施した。
- ・ 必要書類を 1 か所にまとめ、常に目につきやすいようにしたが、職員の意識向上にまではつながっていない。タブレットを使用した記録システムについては、導入初期に比べ、発信内容が深まり、職員間の情報共有のツールとして有効活用出来ている。
- ・ 入居者やご家族へサービス評価に関するアンケートを実施し、セルフケアに関する指

摘があった。

- ・リスクに関しては、再発事故や服薬事故が発生した。業務に気を取られ、リスク管理まで意識をする余裕がないことも要因の一つと考えられる。
- ・ユニット会議がほとんど開催できず、結果としてチームワーク力を高められなかった。

### ③ 環境整備

- ・生活空間としての居室作りに努めたが、清掃や整理整頓が不十分であった。

### ④ 知識・技術の向上

- ・内部研修や法人研修に参加し、自己研鑽に努めたほか、日常的にインターネット等で制度動向等の情報収集に努めた。

### ⑤ 地域福祉への貢献

- ・地区のミニデイサービスに継続的に参加し、少しずつ地域の中で恵昭園の名前が浸透している。

## 【恵昭園デイサービスセンター】

平成 30 年度、恵昭園デイサービスセンターでは、①安定した利用実績の確保、②安心して地域で生活できるサービスの提供、③サービスの質の向上、④リスクマネジメントの徹底の 4 点をとり組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

### ① 安定した利用者実績の確保

- ・ケアマネから新規利用の依頼があった際は、全職員が協力し受け入れ体制を整え、正式な利用へ繋がるよう努めた。ただし、下半期は職員状況等により受け入れ困難な時期もあった。

### ② 安心して地域で生活できるサービスの提供

- ・事業所内での会議の中で、通所介護計画や目標を周知し職員への理解を高め、朝の申し送りや申し送りノートを活用し情報の共有を図った。ただし、申し送りノートについては内容が不十分な点もあった。
- ・送迎時間や延長利用について柔軟な対応を行ったほか、追加利用の要望にも迅速に対応した。

### ③ サービスの質の向上

- ・認知症ケアに限らず、介護に関する基本的な理解や知識不足な点も見られ、サービスの質の向上という面では十分とは言えないものであった。さらに、職員間の情報伝達も不十分な点が見受けられた。
- ・日々の活動において、個々人の嗜好を把握し提供したほか、マンネリ化しないようおやつ作り等を定期的を実施した。

### ④ リスクマネジメントの徹底

- ・ヒヤリミーティングを毎日行い、職員への意識付けを行った。事故発生後はすぐに状況確認を行い、改善策を早急を実施することができた。

[防災・防犯対策]

① 併施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）

1回目・・・平成30年10月13日（土）（夜間想定訓練）

2回目・・・平成31年3月27日（水）（昼間想定訓練）

② 防災設備点検

1回目・・・平成30年6月4日・5日（粕屋南部消防署報告）

2回目・・・平成30年12月4日・5日

③ 防火対象物点検・平成30年6月5日（粕屋南部消防署報告）

④ 受電設備点検

毎月1回の点検及び年1回の法令点検を実施。

⑤ 災害に対する防災訓練（避難・通報・非常時物品準備訓練）

平成30年10月21日（水）（大地震想定）

平成31年2月14日（水）（風水害想定）

⑥ 不審者対策研修（講義・実技演習）

平成31年2月22日（金）

[実績]

① 入・退所（恵昭園）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所数	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	8
退所数	1	0	1	1	1	1	0	1	2	0	0	3	11
月末在所	48	45	48	45	47	48	48	47	42	43	42	43	
稼働率	94.9	92.3	92.1	92.1	92.8	94.9	95.2	94.8	88.7	85.4	84.1	85.9	91.1

② 短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用（延）	219	240	226	213	268	252	246	248	226	220	203	229	2790
平均数	7.3	7.7	7.5	6.9	8.6	8.4	7.9	8.3	7.3	7.1	7.3	7.4	7.6
稼働率	41	43	42	38	48	48	44	47	41	40	41	41	42.9

③ 入・退所（アネックス）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所数	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	4
退所数	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	6
月末在所	18	19	19	19	20	19	18	17	17	17	17	17	18
稼働率	90.8	91.8	95	95.2	97.3	95.8	93.4	88.8	85	81.6	87.9	85	90.6

④デイサービスセンター

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用（延）	464	521	510	548	566	545	571	559	587	529	491	539
平均（日）	18.5	19.2	19.6	21	20.9	21.8	21.9	21.5	22.5	19.5	20.4	20.7

平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護度	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.46



## 【養護老人ホーム双葉】

平成 30 年度、養護老人ホーム双葉では、①リスクマネジメントに対する意識強化と実践、②利用者の自立支援(サービスの質の向上)、③職員間の連携強化および専門性の研鑽、④地域・社会貢献(公益的活動)に対する積極的取組と参加、⑤介護サービス利用に向けた円滑な援助、⑥利用者確保(安定した運営)、⑦福祉サービス第三者評価の受審と改善の実施の 7 点を目標とし取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

### ① リスクマネジメントに対する意識強化と実践

- ・各職種等のマニュアルを随時更新した。
- ・PT による個別評価は継続実施できていたが、集団体操は業務都合で実施できない状況があった。

### ② 利用者の自立支援(サービスの質の向上)

- ・利用者の施設内での自主的活動の支援を進めていたが、食堂の後片付けや施設内外の清掃等に多くの利用者の協力を得ることが出来た。
- ・個別での買い物支援やお寺参りを行った。
- ・厨房職員が実際に食堂で摂取状況を確認することで、必要に応じて食事形態変更の提案を行うことができたほか、ソフト食を考案、メニューに取り入れることができた。

### ③ 職員間の連携強化および専門性の研鑽

- ・入所数は減少しているが、打診があった際は可能な限り受け入れ、迅速な対応に努めた。また、緊急保護の受け入れを行ったことで、行政との信頼関係が構築し、入所に繋がったケースもあった。
- ・他職種間の情報共有や伝達がうまくいかず、結果として職員や利用者へ不安感を与えてしまった。
- ・触法高齢者が入所されたことで、年間予定には入っていなかった触法高齢者に関する研修を実施した。

### ④ 地域・社会貢献活動(公益的活動)に対する積極的取組と参加

- ・地域のクリーンデイに参加し地域の住民の方と清掃活動を行ったほか、職員が地区の餅つきに参加、栄養士による出前授業や周辺地区と共同で行った防災訓練の中で、看護師による心肺蘇生法の講習会を実施した。
- ・施設周辺で転倒されたり迷っておられた方を保護し、交番への連絡やご自宅へ送り届ける等の対応を行った。転倒されていた方については、ご家族や利用中の事業所との連携を図った。

### ⑤ 介護サービス利用に向けた円滑な援助

- ・利用者本人やご家族の要望を反映したほか、介護サービスが必要と思われる方についてのアプローチも行った。

### ⑥ 利用者確保(安定した運営)

- ・行政への挨拶回りは上半期のみ毎月実施することができた。また、県外(松浦市)を訪問し PR 活動を行った。
- ・施設見学時に、送迎の依頼があった際は柔軟に対応した。
- ・緊急保護入所用の備品について在庫確認を行った。

### ⑦ 福祉サービス第三者評価の受審と改善の実施

- ・11 月に第三者評価を受審。薬に関する研修や感染防止のための消毒薬の常時設置が必要との指摘があったため、早急に対応した。

**【訪問介護事業所 ホームヘルパーステーション ふたば】**

平成 30 年度、訪問介護事業所 ホームヘルパーステーションふたばは、①専門職としての資質向上に努める、②リスクマネジメントに対する取り組みを行う、③総合事業に対する取り組みと対策の 3 点を目標とし取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する

① 専門職としての資質向上に努める

- ・ 内部研修だけでなく、外部の研修にも参加した。
- ・ サービス統一のため、マニュアルや手順書を作成、随時見直しを行った。

② リスクマネジメントに対する取り組みを行う

- ・ 感染症に関する外部研修の受講は出来なかったが、感染症罹患者は発生せず、通常のサービス提供が出来た。
- ・ 事故やヒヤリハット発生時は都度検討会を実施した。

③ 総合事業に対する取り組みと対策

- ・ 法人内部と外部の利用者の振り分けを再検討し、外部の方の受け入れを増やせるように調整した。結果として少しずつではあるが利用者数は増えている。

[実績]

①入・退所（双葉）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入所数	1	0	2	0	0	3	0	1	1	3	0	1	12
退所数	0	3	1	1	1	4	1	1	3	2	1	3	12
月初在所	126	123	124	123	122	122	121	120	120	118	119	118	1456
稼働率	84.0	82	82.7	82	81.3	81.3	80.7	80	80	78.7	79.3	78.7	80.9

②利用状況（ヘルプーステーション ふたば）

・登録人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(支援)	18	19	18	20	20	19	19	23	25	25	24	26	256
	(介護)	56	57	57	54	56	55	54	53	53	53	53	54	655
	(総合事業)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	(計)	76	78	77	76	78	76	75	78	80	80	79	82	935

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	(生活)	441	440	428	424	408	396	406	398	408	390	375	392	4,906
	(身体)	293	298	297	289	301	270	257	268	273	280	278	361	3,465
	(身体-生活)	349	369	365	360	367	354	355	354	348	342	333	378	4,274
	(計)	1,083	1,107	1,090	1,073	1,076	1,020	1,018	1,020	1,029	1,012	986	1,131	12,645

## 【特別養護老人ホームなの国】

平成 30 年度、特別養護老人ホームなの国は、①安定した利用実績の確保、②専門性の向上、③地域福祉への貢献の 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

### ① 安定した利用実績の確保

- ・入院者の増加や入所前面談の日程調整に時間を要し、結果長期の空床期間が出来てしまった。
- ・パンフレット送付に際し、料金表や申込書を同封し、在宅サービスと連携したことで入居に至ったケースもあった。
- ・事故件数は減少傾向にあるが、再発防止対策に関する評価が不十分な点が見受けられる。

### ② 専門性の向上

- ・社会性の維持やストレングスモデルを意識した入居の受け入れを行った。
- ・安全面を考えた結果、入居者の個性が消えてしまったのではないかという反省があるほか、個々の個性に対する全体への働きかけが不十分であった。
- ・日々の関わりや他職種からの情報をもとに課題を発見、解決に向けて迅速に対応することが出来た。
- ・カンファレンスを通し、共通理解を元にした QOL 向上といった方向性は出来つつあるが、チームケアやケアプランが実施出来ないという点で課題が残った。
- ・必要時にはご家族や入居者本人へサービス担当者会議への出席を依頼し、直接意向を伺ったことで、安心感に繋げることが出来た。また、各担当者に会議前、入居者のケア等について意見を集めるようにしたことで、担当者自身が個別ケアについて意識するようになった。
- ・リスク項目をケアプランに加えることで、リスクマネジメントに対する意識が高まった。

### ③ 地域福祉への貢献

- ・地域の行事への参加だけでなく、施設内の地域交流スペースを地域へ開放する取り組みを行った。

## 【ショートステイなの国】

平成 30 年度、ショートステイなの国は、①ベッド稼働率の維持・向上、②安心と信頼を得るサービスの提供、③職員資質の向上の 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

### ① ベッド稼働率の維持・向上

- ・新規利用者の受け入れを可能な限り行っており、稼働率が上昇しつつあるため、緊急の受け入れをお断りしなければならない日もあった。
- ・特別養護老人ホーム入居待機のため長期利用中の方が数名おられ、適宜法人内の別サービス紹介も行った。

### ② 安心と信頼を得るサービスの提供

- ・利用中に変化が見られた際やご家族からの急な利用中止の連絡があった際は、速やかに担当ケアマネへ連絡を行った。ご家族から様子観察や処置の依頼があった際は、口頭、もしくは文章で伝達を行った。ただし、情報共有が不十分で苦情に繋がったケースもあった。

### ③ 職員資質の向上

- ・勉強会は開催できなかったが、関係する制度については随時説明を行ったほか、介護技術については、資料を作成、配布した。

### 【デイサービスセンターなのに】

平成 30 年度、デイサービスセンターなの国は、①サービスの質の向上・改善に努める、②新規利用者を増やす、③総合事業と生活支援サービスの充実を図る、以上 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

#### ① サービスの質の向上・改善に努める

- ・サービス向上のため、3 か月ごとに通所計画書を作成、随時個々のニーズに合った独自の計画を追加した。
- ・月に 1 回以上デイサービス会議を開催し、業務の見直しやサービスの振り返り、行事の報告等を行った。
- ・接遇に関する研修を実施し、大幅な苦情件数の減少に繋がった。
- ・施設内の研修だけでなく、地域のカフェやデイサービス会議にも積極的に参加した。

#### ② 新規利用者を増やす

- ・居宅支援事業所へ実績提供表を提出する際に、月間行事予定表や個別計画書も併せて配布、新規事業所や保健福祉センターとの関係構築が出来た。
- ・体験利用者がおられる際は、事前に情報収集を行い、利用当日の行事を体験利用者のニーズに合わせたものに変更した。継続して利用中の方については、随時振り返りを行い、サービス時間や利用回数等の変更を担当ケアマネへ提案したことで、月間の平均利用人数が向上した。
- ・機能訓練指導員を中心としたリハビリの強化以外にも、行事の充実を図ったことで、工作や手芸といった行事を目的とした利用者の獲得に繋がった。
- ・体力や金銭面から短時間利用の希望があった際にも積極的に対応、受け入れを実施した。
- ・同法人のヘルパーステーションやショートステイを利用されている方については、日頃から連携を行い、スムーズな利用者受け入れが出来た。
- ・校区内の文化祭に参加し、そこで利用者が作成した作品の販売を行ったほか、事業所の写真入り看板を設置し宣伝活動を行った。

#### ③ 総合事業と生活支援サービスの充実を図る

- ・地域包括支援センターへ定期的に空き状況を報告したほか、担当者会議時に地域とのつながり調査を行い、民生委員の協力を得て、安心して生活が送れるようなサポート体制を構築した。
- ・保健福祉センターが立ち上げた認知症サポートチームの要請を受け、2 名の方が体験利用を行い、その後新規利用につなげることが出来た。
- ・他のデイサービスでは今年度より要支援者の利用回数や時間制限を行っている中、これまで通りのサービス提供を継続した。
- ・理学療法士や看護師を中心とし「自宅で〇〇をするために、デイサービスでそれに沿ったリハビリを行う」を目標とし、計画書を作成した。

### 【ヘルパーステーションなのに】

平成 30 年度、ヘルパーステーションなの国は、①利用者が在宅で自立した生活が継続でき、信頼される事業所を目指す、②専門技能の研鑽図り、利用者が満足できる在宅生活の支援を行う、③リスクマネジメント・苦情解決に対する取り組みを行う、以上 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

#### ① 利用者が在宅で自立した生活が継続でき、信頼される事業所を目指す

- ・関係機関への定期訪問や連絡を行い、密な情報共有に努めたため、課題発生時も迅速に連携することが出来た。また、内容によっては担当ケアマネへ報告を行い、計画の見直しに繋げることも出来た。

② 専門技能の研鑽を図り、利用者が満足できる在宅生活の支援を行う

- ・担当者会議前後や必要時にカンファレンスを実施したことで、サービス状況の確認や課題の抽出ができ、担当ケアマネとの連携もスムーズとなった。

- ・毎月のモニタリング訪問にて、サービス状況の確認や意見、満足度確認を行った。また、利用者やご家族からの相談や要望に対して迅速な対応が出来た。内容によっては担当ケアマネへ報告、緊急性がない場合は、モニタリング報告書での報告を行った。

[実績]

①入・退所（なの国）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入居数	4	1	0	2	2	2	2	2	0	2	2	3	22
退居数	1	0	2	2	2	1	1	1	2	2	2	3	19
月末在所	75	79	72	69	74	74	76	77	73	75	70	72	886
稼働率	92.7	92.5	89.4	91.2	87.5	92.5	91.7	94.6	94.1	90.2	91.5	89.0	91.4

②短期入所

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用（延）	465	506	547	528	520	482	534	506	524	488	475	562	6137
日平均数	15.5	16.3	18.2	17	16.7	16	17.2	16.8	16.9	15.7	16.9	18.1	16.8
稼働率	77.5	80.3	91.1	88.0	86.6	80.3	84.7	84.3	87.3	81.3	87.9	93.6	85.2

③デイサービスセンター

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用（延）	328	368	355	350	344	326	365	343	327	322	300	362
平均（日）	13.1	12.4	13.1	14.3	14.2	13.5	14.1	13.5	13.4	13.2	14	13.7

平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護度	2	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	2.1	2	2	2	2.09

④ヘルパーステーション

・登録者人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(支援)	20	20	20	23	25	25	26	25	24	23	22	24	277
	(介護)	12	15	16	16	16	17	18	21	21	22	23	22	219
	(計)	32	35	36	39	41	42	44	46	45	45	45	46	496

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	(生活)	62	75	67	76	69	70	83	99	102	94	94	103	994
	(身体)	198	215	226	291	273	295	318	291	261	231	167	211	2,977
	身体・生活	4	11	13	13	14	13	12	5	8	5	0	5	103
	(予防)	113	122	117	147	157	144	163	151	145	144	137	149	1,689
	(計)	377	423	423	527	513	522	576	546	516	474	398	468	5,763

## 【介護老人保健施設若杉の里】

平成 30 年度、介護老人保健施設若杉の里は、①主体が利用者であることを常に意識し、個別性を活かした生活ができるように側面から支援する、②利用者確保に努める、③職員としての自己研鑽に努める、以上 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

① 主体が利用者であることを常に意識し、個別性を活かした生活ができるように側面から支援する。

・ご利用者やご家族からの意見、要望等は責任者へ確実に伝達し、その後の経過等も随時確認を行った。

・法改正に伴ってサービスの質の低下を引き起こさないよう、これまで通りのサービス提供に努めた。

・リスク軽減を目的とした予防カンファレンスは定着しつつあり、チーム間の統一性が図れてきた。

・著しい ADL の低下や認知症の進行、看取りケースでは随時プランの修正を行うことが出来たが、個々のプランについては具体性に欠けるものが目立った。

・見取り期は可能な限り個室環境を準備し、ご家族の休息用ソファやベッドを用意したほか、職種に関係なく積極的に訪室し、ご利用者本人やご家族と時間を共有することが出来た。

・記録は表面的な内容であることが多く、ご利用者の表情や言動を掘り下げた記録を作成することが出来なかった。

② 利用者確保に努める

・入所希望者やそのご家族の都合を考慮しつつも、空床期間を短縮出来るよう、日程調整等を行ったほか、相談員だけでなく看護師、リハビリ職員も可能な限り面談に同席出来るような日程の調整に努めた。

・法人内他事業所との連携強化のため、随時情報交換を行った。

③ 職員としての自己研鑽に努める

・毎週リーダーナースが率先し勉強会を行ったほか、新人職員に対しては、日々の業務場面で技術指導を随時行った。



[防災対策]

① 併設施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）を2回実施した。

1回目・・・平成30年6月16日（土）（夜間想定訓練）

2回目・・・平成30年12月1日（土）（昼間想定訓練）

② 防災設備点検

1回目・・・・・・・・平成30年6月4日、5日（粕屋南部消防署報告）

2回目・・・・・・・・平成30年12月4日、5日（粕屋南部消防署報告）

③ 防火対象物点検・平成30年6月5日（粕屋南部消防署報告）

④ 消防署立入検査・平成31年3月4日

⑤ 防災訓練

大地震・・・・・・・・平成31年月30日（利用者4名・職員17名参加）

風水害・・・・・・・・平成31年2月21日（利用者12名・職員19名参加）

⑥ 受電設備点検

毎月1回の点検及び年1回の法令点検を実施。

[実績]

① 退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者	4	6	5	2	6	2	2	2	3	2	1	1	36
短期入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者	2	5	5	2	4	2	1	4	3	1	5	5	39
月末在籍者	87	88	88	88	90	90	91	89	89	90	86	82	
稼働率	88.8	86.3	87.7	88.8	87.8	90.5	90.9	89.8	88.9	89.1	87.9	84.6	88.8

② 月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	11	12	12	11	12	14	12	14	14	13	13	13
要介護2	15	13	12	13	15	13	14	14	13	13	12	12
要介護3	18	19	20	19	20	20	19	19	20	20	19	18
要介護4	21	24	25	26	24	24	26	23	23	24	24	23
要介護5	22	20	19	19	19	19	20	19	19	20	18	16
合計	87	88	88	88	90	90	91	89	89	90	86	82
平均要介護度	3.32	3.31	3.31	3.33	3.26	3.23	3.31	3.21	3.22	3.28	3.26	3.21

## 公益事業

### 【居宅介護事業所 ケアプランセンターふたば】

平成 30 年度、居宅介護事業所 ケアプランセンターふたばは、①健全な事業所運営と独立採算ができる利用者確保を目指す、②地域に根ざした事業所運営と地域活動への参加、③介護保険制度改正の理解と介護支援専門員としての資質向上の 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

#### ① 健全な事業所運営と独立採算ができる利用者確保を目指す

- ・介護保険適正化事業(ケアプランチェック)対象者のケアプランを提出し、指導を受けることで、より適切なケアプランの作成ができるように事業所内で情報共有を行った。
- ・近隣の地域包括支援センターへの訪問を実施。また、困難事例を積極的に受け入れることで、区分変更等の担当者会議に呼ばれたケースもあった。
- ・随時病院等へ営業を行ったほか、他事業所の活動に積極的に参加することで情報交換を行うことが出来た。
- ・医師会や地域包括支援センターの事例検討会に積極的に参加した。

#### ・平成30年度利用者登録者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護5	31	32	33	33	33	32	29	27	26	25	25	23	349	29.1
要介護4	24	26	27	31	31	32	30	29	30	29	30	30	349	29.1
要介護3	14	12	10	10	9	10	10	10	10	12	12	12	131	10.9
要介護2	6	7	7	7	7	7	6	6	6	7	9	8	83	6.9
要介護1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	5	5	30	2.5
要介護(合計)	77	79	79	83	82	83	77	74	74	75	81	78	942	78.5
要支援2	10	11	10	10	10	11	11	12	11	12	12	12	132	11.0
要支援1	16	17	18	18	18	18	18	18	20	21	22	23	227	18.9
要支援(合計)	26	28	28	28	28	29	29	30	31	33	34	35	359	29.9
総合計	103	107	107	111	110	112	106	104	105	108	115	113	1,301	108.4

### 【居宅介護事業所 ケアプランセンターなのくに】

平成 30 年度、居宅介護事業所 ケアプランセンターなのくには、①要支援・要介護者の自立支援に資するケアマネジメントの実践、②地域で信頼され選ばれる事業所の確立、③介護支援専門員としての資質向上、研鑽の 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

#### ① 要支援・要介護者の自立支援に資するケアマネジメントの実践

- ・サービスを選択する際、指定の事業所がない場合は、パンフレットや体験利用を積極的に行い、複数の事業所の紹介を行った。
- ・同法人内のサービス事業所やサ高住と連携し、常に状態把握を行い、随時環境改善やサービスの見直しをすることで、要支援・要介護状態の進行予防に努めた。

#### ② 地域で信頼され選ばれる事業所の確立

・担当利用者の入退院時は、書面やカンファレンスに出席することで情報収集や連携を図った。

③ 介護支援専門員としての資質向上・研鑽

- ・ケアマネ連絡会へ参加し、現在の情勢や動向、情報共有を行った。
- ・主任ケアマネ研修に参加し、資格を取得することが出来た。

・平成 30 年度利用者登録者数

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要支援	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
要介護	31	32	32	33	31	32	33	33	32	33	30	30
登録者（計）	34	35	35	36	34	35	36	36	35	36	33	33

【サービス付き高齢者向け住宅 まほろばの里なの国】

平成 30 年度、サービス付き高齢者向け住宅 まほろばの里なの国は、①安定した入居実績の確保、②安心・信頼を得られるサービスの充実、③地域との連携強化の 3 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次のとおり報告する。

① 安定した入居実績の確保

- ・入居者の心身機能の低下により、特養への入居が増えているが、空室を最小限にするよう積極的な広報活動と柔軟な受け入れに取り組んだ。入居の問い合わせについても、毎月一定数の相談を受けており、安定した待機者確保が出来た。

② 安心・信頼を得られるサービスの充実

- ・入居者個人からの相談は多く、都度対応することが出来た。頂いた要望については、運営懇談会で全入居者へ報告し共有した。
- ・運営懇親会に地域の第三者の出席が必要との指導があったため、民生委員の方へ参加を依頼した。
- ・訪問医療を利用される方が増えたため、往診時は看護師を中心とした付き添いの体制を作り、在宅医との連携強化に努めた。また、医療面についてのご家族への連絡は、基本的に看護師が行うこととし、詳細な情報伝達が出来るようになった。
- ・定期的な戸別訪問時に、転倒予防のための居室内のリスクアセスメントを行うだけでなく、トラッキング火災等防止のため、電気系統に詳しい職員を中心とし、コンセントの使用方法や清掃の助言を行うことで、事故防止に努めた。一方で、前年度は実施できた、まほろばの里なのくに単独での消防訓練が実施できなかった。

③ 地域との連携強化

- ・入居者に対して地域行事への参加のアナウンスを行っているが、年々参加できる方が減ってきている。ただし、集会所で行われている行事や講義への参加は増えている。
- ・集会所において、応急手当と認知症予防の講話を実施した。
- ・地域の文化祭へ出店を行った。

【入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	2	6
退居者数	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	7
月末在居者	39	40	41	42	41	43	43	43	40	40	40	42	494
稼働率	98.8	93.5	94.8	97	97.5	99.2	100	100	97.7	95	95.4	95	96.9

【月別要介護度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	7	7	7	9	9	10	10	9	9	9	10	11	107
要支援1	12	12	11	9	9	8	8	9	8	8	8	8	110
要支援2	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	67
要介護1	7	8	9	9	9	10	9	9	9	9	8	7	103
要介護2	9	7	6	6	6	6	7	7	7	8	8	9	86
要介護3	2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	19
要介護4	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均要介護度	1.72	1.77	1.64	1.72	1.72	1.68	1.74	1.74	1.67	1.68	1.72	1.78	

【なの国ケアスクール】

平成30年度、なの国ケアスクールは、①事業の安定的継続、②研修内容の充実、③地域貢献の推進、④人材育成と確保の4点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成30年度の事業について、次のとおり報告する。

・「開校スケジュール」

○実施場所 福岡県福岡市西区拾六町団地2番18号（特別養護老人ホームなの国内）

○開講予定 平成30年6月 介護職員初任者研修（通信課程） 定員20名  
平成30年12月 介護福祉士実務者研修（通信課程） 定員20名

① 事業の安定的継続

・近隣の自治体を中心に積極的な広報活動を行い、それぞれ受講者数を確保することが出来た。また、就労と学習の両立がしやすいように、カリキュラムや日程の見直しを実施、教育訓練給付金や介護福祉士就学資金貸付制度の活用や紹介を積極的に行い、受講生の金銭的負担軽減に努めた。

② 研修内容の充実

・担当講師との振り返り会議や研修を実施。それに合わせて、補助テキストの修正や映像教材の追加を行った。介護福祉士実務者研修については、試験対策講座や予想問題の提供を行い、受講生からは高評価を頂いた。

③ 地域貢献の推進

・介護職員初任者研修については、各高校に広報活動を行ったが、受講者は得られなかった。

④ 人材育成と確保

・法人内職員(9名)が受講し、有資格者となった。また、11名の法人職員が講師を担当、講義を行うために必要な知識や技術をスキルアップさせることが出来た。

### 【恵徳会ライフレスキュー事業】

平成 30 年度、恵徳会ライフレスキュー事業は、①地域の中で援護を必要とする方への相談活動を活性化し、必要なサービスに繋げる、②経済的に困窮されている方へ真に必要な援助を行う、以上 2 点を目標に取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく平成 30 年度の事業について、次の通り報告する。

#### ① 総合的な生活相談活動の実施

- ・ 恵徳会が主体となって問題解決を行うケースはなかったが、事務局が担当したケースに同行し、対象者の問題解決に向けた援助を行った。
- ・ 定例の連絡会へ出席し、随時支援の流れや情報を取り入れ共有を行った。ただし、サポーター養成研修や相談援助技術研修会への出席は出来なかった。

#### ② 経済的援助活動

- ・ 随時、不要となった家具や家電を収集、施設で保管し、突発的なリユースへの対応を行った。